ISSN 0919-4657

KONC

関西自然保護機構会報

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

20巻1号（通算35号）



1998年6月
関西自然保護機構

表紙の言葉

「平池のカキツバタ群落」　　写真・文　小林圭介

滋賀県の北西部に位置する平池は、国道161号から今津町の酒波谷林道を登りつめた所の、広い谷部に形成されている浅い池である。6月の中旬頃になると、この平池の水面をカキツバタの青紫色の花が絨緞を敷きつめたように一斉に開花する。池周辺の湿地にはサワオグルマ、バイケイソウ、ヤマドリゼンマイなどの草本類やレンゲツツジ、タンナサワフタギ、タニウツギ、オオカメノキなどの花木類も多く生育している。また、産卵の頃になると池の西側斜面から張り出した低木類の枝には、まるで白い花が咲いているようにモリアオガエルの卵塊がぶら下がる。

カキツバタは池や沼などに群生するあやめ科の湿生植物で、今では多くの園芸品種がつくられ、栽培されている。古い時代に、この花を衣に摺りつけ染めたので「かきつけばな」と呼ばれるようになり、これがカキツバタの名のおこりとされている。花が大変美しいので美人にもたとえられ、また季節の花としても愛されることから、万葉集にも7首が詠まれている。

杜若　咲く澤に生ふる　菅の根の
　　絶ゆとや君が　見えぬこのころ

これは、万葉集に詠まれたカキツバタの代表的な歌で、「あの人、この頃来てくださらないけれど、どうなさっているのかしら、ひょっとしたら、誰かが邪魔をしているのでは……。」と、いじらしい女心、いとおしさが伝わってくる歌である。また、2人の仲を邪魔する比喩に、沢の湿地に咲くカキツバタの群落の生育を邪魔するスゲの根を詠んでいる。このように自然を熟知した、豊かでやさしい心をもったカキツバタのような万葉の女性に会ってみたいと考えるのは、私ばかりではないであろう。

最近、こうしたすばらしい平池の際までも観光開発の波が及んでおり、今こそ万葉人の心と知恵を現代人は学びたいものである。

関西自然保護機構（ＫＯＮＣ：Kansai Organization for Nature Conservation）

ＫＯＮＣはなんらかの形で，専門家として自然環境保護にかかわる人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978年に創立されました。

ＫＯＮＣはその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現代，次のような活動をしています。

1．　基礎研究の実施
2．　シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3．　現地見学会の開催
4．　研究助成金の交付
5．　会報・連絡紙の発行
6．　自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7．　自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8．　国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・推持会員の会費により，まかなわれています。